



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.cocacn.jp/kisogawa.html>

日時 2018年9月9日(日) 9:30~12:00 (曇り/雨)

参加者 一般:4名(うち子ども2名)、

指導員:4名

テーマ 「秋の花を見よう！」

直前に公園の管理事務所から電話があり、前夜の雨で木曽川の水位が高く危険なため、河川敷には下りないようにとの注意がありました。今年は雨に見舞われることが多かったこの観察会ですが、今回も怪しい雲行きのもとで秋の花を見ながら堤防道路を歩いて大野極楽寺公園に向かいました。

この時期によく目につくのはマメ科の花(蕾だったものを含め11種を観察)です。隣り合って咲いていたハギとアレチヌスビトハギの花を比べると、形も色合いもそっくりでした。クズの花にはこれを食べて育つウラギンシジミの幼虫がついていました。

道路脇にガガイモの花が咲いていました。この花はピンク色でしたが、ルーペで花を拡大してみると花弁の内側に毛がびっしりと生えており、花の中心からねじれた棒状のものが突き出しています。その形状から雌しべの柱頭かと思いましたが、指導員の太田さんからこれは柱頭ではなく、その機能は分からないものだと言われました。花の構造は見かけによらず複雑なのですね。

大野極楽寺公園では7月に刈られたツリガネニンジンが再び20cm程に伸び、花を付けていました。ずっとここに残ってほしいものです。

秋らしい花といえばヒガンバナです。私の住んでいる岩倉ではまだ咲いていませんが、ここでは既に赤や黄色の花が開いていました。8日の定光寺の観察会では既に花の終わった株も見られました。ヒガンバナは場所によって開花時期にすいぶん差があるものなのですね。資料に載せた秋の七草は、クズのほか公園に植えられているハギ、オミナエシ、キキョウの4種を見ることができました。(報告; 齋竹)

<観察できたもの>

花:メドハギ、シロツメクサ、ヤハズソウ、ヤマハギ、アレチヌスビトハギ、クズ、コマツナギ、ヤブマメ、ノアズキ、ヌスビトハギ、フジカンソウ(蕾) [以上マメ科11種]、ブタナ、ブタクサ、オオブタクサ、ヒメジョオン、ヒメムカシヨモギ、ヘクソカズラ、オオブタバムグラ、メリケンムグラ、メマツヨイグサ、ツユクサ、センニンソウ、オミナエシ、ヒガンバナ、ミソハギ、キツネノマゴ、ヤブミョウガ、ツルボ、ヤブラン、マルバヅクサ、マメアサガオ、ホシアサガオ 鳥:ツバメ、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、キジバト、ヒヨドリ、モズ(声)、メジロ(声) 虫:ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ミヤマアカネ、マユタテアカネ、ギンヤンマ、クロイトトンボ、キタキチョウ、モンキチョウ、ナミアゲハ、ヒメアカタテハ、ウラギンシジミ(成虫・幼虫)、ヤマトシジミ、チャバネセセリ(幼虫)、オオスカシバ、ホシホウジャク、ツウツクボウシ(声)、アブラゼミ(声)、コアオハナムグリ、ツチイナゴ、ショウリヨウバッタ、コバネイナゴ、クルマバッタモドキ、エンマコオロギ



(観察会のようす)



(ウラギンシジミ幼虫)



(ガガイモの花)



(ツリガネニンジン)



(ヒガンバナ)